



今号の紙面から ● 3面 特別定額給付金の申請はお早めに ● 6・7面 町田市5ヵ年計画17-21 2019年度はこんなことに取り組みました



プラスチックを考える

つくる責任 つかう責任

プラスチックは、とても便利な素材です。成形しやすく、軽くて丈夫で密閉性も高いため、さまざまな製品になり、あらゆる分野で私たちの生活に役立っています。その一方で、環境負荷の一因ともなっています。

日常にあふれるプラスチックについて、「つくる」「つかう」の両面から考えてみましょう。

問 環境政策課 ☎724・4379

知っていますか？

容器包装プラスチックと製品プラスチックの違い

容器包装プラスチックとは、中身を取り出したり使い切ったりした後不要になるプラスチック製の容器や包装のことで、上の写真の点線部分が容器包装プラスチックの代表的なものです。市では、JR横浜線以南地域の容器包装プラスチックを資源化しています。

製品プラスチックとはバケツやごみ箱など、製品そのものがプラスチックでできているものです。

「つくる」責任とは？

「つくる」立場の企業では、プラスチック製のものを別の素材に置き換えたり、環境負荷の少ないプラスチックに置き換えることが求められており、脱プラスチックの動きが加速しています。

例えば、飲食店や小売店では、プラスチックストローを紙製ストローに換えたり、レジ袋を紙袋に換えたりするなど、プラスチックの使用量を減らす取り組みが行われています。

また、私たちが普段使用しているプラスチックも変化しています。生分解性プラスチックでできたストローや再生材をより多く使用したペットボトル、素材の一部がバイオマス由来のレジ袋などが開発され、今までと同じプラスチックに見えても、環境のことを考えたものが増えてきています。

「つかう」責任とは？

プラスチックの使用量を減らすには、まず不要なものはもらわない、買わない、使うのであれば環境に配慮したものを選択することが大切です。必要な分だけ選択したうえで使い、使った後はどう排出する(資源化する)かを考えましょう。

●7月から全国でレジ袋が有料化されました

レジ袋の過剰な使用を抑制するとともに、普段何げなくもらっていたレジ袋が本当に必要なものかを考え、ライフスタイルを見直すきっかけにしましょう。

【マイバッグを自分で作ってみませんか？ → 関連記事5面】

3Rはごみを減らすキーワード

レジ袋をもらわない行動は「Reduce(ごみを作らない)」、マイボトル・マイカップ・マイ箸等を使用する行動は「Reuse(繰り返し大切に使う)」です。これに「Recycle(分けて資源にする)」を加えた、アルファベットのRから始まる3つの言葉を3Rといい、ごみを減らすキーワードです。

詳細は2面へ